

ZENRAKUREN

MEMBER'S INFORMATION

全酪連会報

若手後継者の本音／ 高橋雅治さん

第54回農林水産祭式典が
盛大に開催される

—山下雅博さん（北海道会議）内閣総理大臣賞 表彰式—

「理解醸成活動」

東京・有楽町駅前にて大々的にPR!!

購買部だより

全日本ホルスタイングランプリ2015
開催される



酪農トピックス／第6回 東京支所管内
「会員女性職員研修会」開催！（東京）ほか

日本酪農見て歩紀（鳥取県西伯郡伯耆町 杉浦真司牧場）

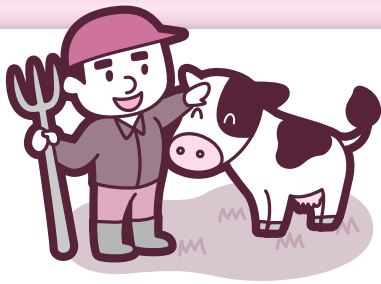


12

2015 December No.603



全国酪農業協同組合連合会



若手後継者の 本音 Vol.17

ホンネ

堅実な家族経営を目指す

今回は、**三重県多気郡多気町 高橋牧場**の後継者
高橋雅治さんにお話を伺いました。



雅治さん(左)と父邦治さん(右)

〔経営概況〕

所 属	大内山酪農農業協同組合(谷川原万欣代表理事組合長)
家族構成	雅治さん、父の高橋邦治さん、母の明美さん
飼養頭数	経産牛30頭、未經産牛10頭(子牛含む)

高橋牧場が在る多気町は、三重県のほぼ中央に位置しており、海に面していません。積雪もほとんどなく、江戸時代に作られた農業用水路のおかげで稲作を中心にお茶栽培など、農業の盛んな地域です。また、本草学(薬草による医学)の先駆者で、徳川吉宗のお抱え医師を務めていた野呂元丈の出身地としても有名です。

同牧場は大内山酪農農業協同組合(谷川原万欣代表理事組合長)に所属しており、経産牛30頭、未經産牛10頭(子牛含む)を飼養しています。対尻式の繋ぎ牛舎でパイプライン方式による搾乳処理を行い、糞尿はバーンクリーナーを使い堆肥舎へ移出、発酵させ、自給飼料作付地への還元、外部への販売を通して完結しています。

労働力は経営主の邦治さん(50歳)、奥さんの明美さん(47歳)、長男の雅治さん(23歳)の家族3人で、特に役割分担は決めず、臨機応変に協力して作業しているとのこと、2人で日常作業がこなせるため、ヘルパーは殆ど利用していないそうです。雅治さんには2人の弟と1人の妹がいます。

約5町(借地2町)の作付を行い、コーン、ソルガム、イタリアン、えん麦、WCS等、自給飼料を主体にした飼料給与体系となっています。

今回は、高橋牧場の後継者として日々頑張っておられる雅治さんにお話を伺いました。



牛舎

就農しての感想

私は酪農3代目であり、小さい頃から牛舎に出入りし、中学校から手伝いをしていました。地元の農業高等学校を卒業と同時に昨年3月に就農して、1年8カ月となります。

特に意識することなく、就農への道を歩んできました。まだまだこれからですが、相手が生き物だけに特に繁殖成績の改善が難しいと感じています。今後は、分娩月が偏っているのでバランス化していきたいです。

雅治さんは所属組合青年部の役員や消防団の隊員にも所属し、前者の年4回の研修会や消費拡大活動には積極的に参加しており、新

たな技術情報を得られること、また、多くの
人とのコミュニケーションを通じて様々な考
え方があることを知ること、酪農以外の知識
が増えること等は仕事においても大きな糧と
なっているとのことでした。

今後の目標について

近い将来や経営継承したら変わるかも知れ
ませんが、現時点では大きな増頭は考えてお
りません。当面、現在の牛舎を搾乳牛で満た
し、乾乳牛舎を建設することが目標です。自
給飼料の拡充を図りつつ、限られた頭数で個
体の生産性向上に努めていきたいと思いま
す。そのためには個体成績を高めて長命連産
の牛群となるよう飼養管理技術の向上、飼養
環境の充実が必要と考えます。そのために、

今後とも組合や関係機関の指導をお願いし
たいと思います。

関係団体、行政への要望

今は家族3人で何とかなっていますが、余
暇の充実、将来のことを考えると、酪農ヘル
パー要員を是非増やして欲しいです。地域や
全国の酪友のことを考えてもこのことは重要
不可欠だと思います。組合も要員確保に鋭意
努力しているそうですが、なかなか難しい状
況にあるようです。このことは全国的な課題
かも知れません。

また、直近の話題となっているTPP交渉
大筋合意に関連しては、とにかく輸入品に負
けない品質の国産品確保のための的確な支援
をお願いしたいと雅治さん。

さらに、補助事業において、どうも稲作優
先となっているようで、例えば飼料用米やW
CSに関連した補助金交付についても最終的
に利用する畜産農家のことへの公助の充実を
図って欲しいとのことでした。

ご家族へのメッセージ

就農してまだ2年
も経たないので、ま
だまだ小学1年生
かも知れませんが、
日々、家族の協力、
応援には感謝して
います。頑張りま
すので今後とも宜
しくお願いします。



遠景



ロールバックサイレージ



牛舎内



堆肥舎

高橋さんより

全国の若手後継者の皆さんへ一言！

飼料を始め生産資材の高騰で酪農を取り巻く経営環境は非
常に厳しいですし、TPP 交渉大筋合意による今後の影響につ
いてははっきりせず、不安は解消されませんが、全国に多
くの若い同志が居ることを認識し、皆で一緒に頑張りましょう。



第54回農林水産祭式典が盛大に開催される

——山下雅博さん（北海道会議）内閣総理大臣賞 表彰式——



▲授与式の様子

大臣賞に選ばれました。

式典は開会の後、国歌斉唱、森山裕農林水産大臣挨拶に続き、当日は「新嘗祭」（いにしめさい）日本では古くから五穀収穫を祝う習わしがあり、飛鳥時代から続く宮中祭祀のひとつ）ということもあり、生産者・消費者代表による収穫感謝の言葉があり、三賞の表彰に入りました。

11月23日（月・祝）、農林水産祭の最高の名誉である天皇杯をはじめとした三賞の表彰式が東京都渋谷区（明治神宮会館）において、三賞受賞者並びに農林水産大臣、各界代表者、地域の農林水産関係者を含めた多数の方々の参加のもとに盛大に開催されました。今年度は、当会議より出品しておりました山下雅博氏の経営が高く評価され、畜産部門において内閣総理

表彰式ではまず始めに、鈴木和夫農林水産祭中央審査委員会会長による選定審査報告があり、最高位の天皇杯から順次授与されました。壇上に上がった山下さんはとても華々しく、自信に満ち溢れた表情で臨み、森山農林水産大臣より内閣総理大臣賞を授与されました。表彰は日本農林漁業振興会会長賞へと続き、来賓祝辞、祝電披露が行われ、最後に、明治神宮権宮司による豊かな実りに感謝する万歳三唱が行われ、式典は弊会しました。

山下雅博氏の業績の概略

大学卒業後、乳業メーカーに就職。自分で酪農をする夢を果たすために11年間務めた会社を辞め、北海道の牧場で研修。その後、リー方式による就農を前提に家族で北海道天塩町に移住し、前オーナーの下で研修を積み就農した。就農後は、収益性を高める集約放牧と全頭が同じ時季に分娩する季節繁殖の導入等により省力化を実現し、サラリーマン時代と同程度の労働時間で他に類を見ないほどの高所得率を誇り、高収入酪農を実現している点が高く評価された。



▲山下雅博氏と奥様の知子さん

山下氏をはじめ各賞の受賞者の業績は、国内外の情勢が大きく変化している中で、今後の日本の農林水産業と農山漁村の振興・発展の実践的な指針として高く評価されるものであります。山下牧場のさらなるご活躍とご健勝を祈念し会場を後にしました。



会場には受賞者の業績が掲示されている



消費者に対して酪農への理解を訴える

理解醸成活動

東京・有楽町駅前にて 大々的にPR!!

—前後して全国各地でも展開—

危機に直面する日本の酪農。
今まさに「崖っぷち」に
立たされています!



本会は11月16日(月)に、JR有楽町駅(東京都千代田区)の駅前広場において、酪農青年女性会議の協力を頂き、消費者に対する酪農の理解醸成活動を展開しました。この活動は、一昨年の飲用牛乳の値上げに際して牛乳消費の落ち込みを防止する目的で始まり、今年が3年目の活動になります。今年は酪農が置かれている厳しい現状を消費者に伝えるべく、活動を行いました。

活動は、酪農に関するパネルや搾乳体験もできる牛の模型を展示し、道行く人々に牛乳用の保冷エコバックと理解醸成を求める内容のチラシを配布しながら酪農が置かれている現状の説明を行いました。全国酪農青年女性会議の半澤委員長が「今まさに、日本の酪農は崖っぷちに立たされています。私たち酪農家は、毎日

心を込めて牛乳を搾っています。その牛乳をこれからもずっと飲んでいたことが、何よりの励みになります。どうぞみなさん、牛乳を飲んで私たち酪農家を応援してください!」と訴えると、主婦を始め若い方々も、足を止めて説明を聞いていました。今年には特に、酪農の置かれた現状を酪農家が消費者に直接伝えることを重視しました。そのため、広場では酪農家の皆さんが配布資材を手にと道行く人々に話しかける姿が、あちらこちらで見られました。説明を聞いた人々からは「知らなかった」「初めて聞いた」などの声が挙がっていました。また活動終了後、酪農女のメンバーからも「消費者に直接訴えることが



▲半澤委員長による街頭演説で活動開始!

でき、有意義な機会だった」「明日からの励みになった」などの声が聞かれました。この理解醸成活動は、この東京での活動のほか、全国各地のイベント等で展開いたします。皆様のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。



▲丁寧な説明を加えながらの配布活動

全日本ホルスタイングランプリ 2015 開催される



▲ 開会式時の様子

去る10月23日(金)・26日(月)、4日間にわたり北海道勇払郡安平町の北海道ホルスタイン共進会場において5年に1度の乳牛の祭典「第14回全日本ホルスタイングランプリ2015」が盛大に開催されました。前回は口蹄疫への懸念と東日本大震災の影響で開催が中止となり、今大会は10年振りの開催となりました。開催期間中は晴天ほかり、雪降る日もあり天候不順ではありましたが、全国の酪農家の皆様や関係者など約3万人が来場されました。

全国から予選を勝ち抜いてきた374頭(ホルスタイン種344頭、ジャージー種30頭)の乳牛が集まった他、会場内では、酪農資材器具展・技術交流会として参加した各酪農



▲ ゴールデンセールの様子

団体約92社がブースを設置し各団体が機材の展示・催しをはじめ、屋外では、巨大モニターでの共進会の中継、飲食コーナーも充実しており、さながらフードフェスタを彷彿するような賑わいを見せていました。

初日の23日はオープニング・セレモニーが開かれ、名誉会長ら来賓出席者によるテープカットが行われ、続いて行われた開会式では、各出品者の入場行進後、主催者を代表して日本ホルスタイン登録協会北良治会長より主催者挨拶がありました。また、同日にはゲノミックゴールデンセールが行われ、多くの来場者が訪れたため、入場規制がかかるほどの盛り上がりを見せていました。結果は、25頭が出品され最高価格が360万円、平均価格は173万円で取引されました。他には、高校生によるリードマンコンテストも行われました。

24日からは各部の比較審査が行われました。ホルスタイン種未經産から始まりホルスタイン種経産、ジャージー種と審査が行われ、25日には、最高位賞の決定審査の結果、最高位賞は天野洋一さん(北海道十勝管内更別村) 出品のレデイス

マナー MBセレブリティ号（14部：ホル種経産6歳以上）が受賞されました。26日の最終日には、各部優等賞牛のパレード後、名誉賞および準名誉賞牛への褒章授与、次回開催地を代表して九州・沖縄地

■入賞結果

	部門	名 号	出品県	出品者氏名
最高位賞	14部	レデイスマナー MBセレブリティ	北海道	天野洋一さん
名 誉 賞	1部	TLM アジー ビスタ オア EL	北海道	佐藤孝一さん
	3部	DH チャンス メイク ET	北海道	山内誠さん
	9部	クリアデール チュンキー マーシャル アイオーン	北海道	白崎紘希さん
	8部	TMF ナイデル アット アンナ エコー	北海道	(有)田中牧場
	12部	エツセンス ゴールド アポロ エル ダーハム ET	北海道	栗城一貴さん
	13部	KWF サンチエリア ダーハム ビュー	北海道	(株)敬和ファーム
	14部	レデイスマナー MB セレブリティ	北海道	天野洋一さん
	16部	クローバー クリストファー ロビン	北海道	(株)松本牧場
	17部	アサナベ IT フォング プリトニー	岡山県	筒井大悟さん

区酪農団体協議会の尾形文清会長より閉会の挨拶が行われ盛会のうちに終了となりました。

本会では、出展ブースを設置し、強化、哺育と分析センターの Dairy One 飼料分析のミニセミナーを実施したほか、販売預託事業や粗飼料（クレイン）のパネルの展示、カーフトップやロールクリエート社と共同での哺乳ロボットの展示をしました。さらには本会のスモークチーズや酪農家6Pチーズ、ゴータチーズなどの乳製品の販売などを行い、各コーナーにおいて来場の皆様方からご好評を頂きました。特にミニセミナーでは多くの酪農家の皆様がセミナーに耳を傾け、終了後にも大変多くの質問を頂き、強化、哺育技術について更に理解を深めて頂き、良い機会となりました。チーズコーナーでは試食を用意し、召し上がられた方々からは「おいしい！お酒に合うね！」などの言葉をいた

だき、準備したチーズが最終日を迎える前に完売するなど、大好評の中で終わることができました。

次回は、東京オリンピックが開催される2020年に九州・沖縄ブロック大会として宮崎県都市で開催されます。全国の酪農家、関係者団体、消費者が集まりお互いの理解を深める大切な場所として、次回開催も盛り上がる事を期待します。

▶本会の「強化」哺育で育成された牛が優等賞に選ばれました。ブース前に入賞した牛をパネルで紹介したところ、多くの方が関心を示しました。

第2部204号
第2部219号
第5部527号
第13部1312号
第17部1701号



◀本会へ来場された関係者各位、皆様方ありがとうございました。

◀本会ブースにて

仙台
支所発

東北酪青婦 秋季研修会開催される

去る11月18日(水)から2日間にわたり、東北酪農青年婦人会議秋季研修会が開催されました。今年は、丹泉ホテル（山形県南陽市赤湯）を会場に60人を超える参加者が集い、全酪連購買部酪農生産指導室の田中真二郎研究員を講師に『マネジメントサイクルを作ろう～計画を確認する場を作ろう～』と題して講演が行われました。



▲講師の
田中真二郎研究員

講演では「残念ながらPDCAを意識して経営している酪農家は多くない。過去3年分の経営状況を紙に書き出し現在と見比べ、何が問題なのか突き詰めましょう。将来3年分の計画を紙に書き出し、行動計画を書き表しましょう。」と述べ、「行動を実行するには、家族、職場のコミュニケーションが大切。どう共有するか」とグループに分かれ討論しました。

4名1班に分かれてのグループ討議では、「父子で方向性が違う」し、「そもそも親子は世代が違うから相容れない」と言いつつ、時には「母・嫁だけでなく、父（社長）・息子（従業員）も仲介役に」なる必要があり、互いを分かり合うために「言葉や文字で表さなければ伝わらない」ので「伝言板を活用」して「ルールをつくろう」などの意見が出ました。「命令ではなくアドバイス」をして「聞く耳をもって」

「きちんと返事をする」こと。「貯金残高と家族のコミュニケーションは比例する」かもしれないけど「ただ働いているだけではつまらない」と、討論は尽きませんでした。

翌日は、平成26年度全国酪農経営発表大会で最優秀賞（同年農林水産大臣賞受賞）に輝いた高橋実牧場（山形県飯豊町）で視察研修が行われました。研修後は、奥さんの美穂さん手作りの『和栗入りチーズケーキ』や山形県酪婦人部によるご当地名物『いも煮』などが振る舞われ、東北各県酪農家の交流が一層深まる研修会となりました。（I.M）



◀グループ討議の様子



▶山形県酪のおもてなし



▲高橋実牧場にて

仙台
支所発

東北の牛乳・乳製品をPR 『ふるさと渋谷フェスティバル2015』に再出店

去る11月2日(月)から3日(火)にかけて開催された『ふるさと渋谷フェスティバル2015』において、東北酪農青年婦人会議（半澤善幸委員長）は、東北の酪農をPRするため、東京の消費者に対して牛乳・乳製品の販売を行いました。

今年で38回目を迎えた『ふるさと渋谷フェスティバル』は、代々木公園をメイン会場に例年150前後の団体がブースを出展し、野外ステージ等では50を超えるイベントが催される渋谷区的一大イベントです。

東北酪青婦は、渋谷少団連サポートクラブ（旧：渋谷区少年団体連盟）との交流の一環で、東京の消費者に東北の酪農を紹介するために過去からこのイベントに参加していました。しかし、2011年の震災以降は出展の参加を中断し、こどもの城（渋谷区）に場所を移して活動を続けていましたが、今年は4年ぶりに出店することができました。

テントを訪れたお客さんたちは、産地限定牛乳や低温殺菌牛乳などを手に取りその違いの説明に聞き入り、チーズを試食すると『ネットでも買えますか?』と問い合わせる人もいました。購入いただいた方には保冷バッグを添え、『こんないいもの頂けるならヨーグルトをもう一ついただくわ』と、用意していた牛乳・乳製品は、終了時間を待たずに完売しました。

半澤委員長は『震災直後は産地を聞いただけで手を引いていた東京の消費者も、かなり意識が変わってきている』と確かな手ごたえを掴み、参加した酪青婦役員も、『私たちが絞った牛乳を飲んでいただける消費者の方々と直接顔を合わせることができ、非常に充実しています。明日以降も頑張ろうという気持ちになります』と感想を述べ、『また皆で来年以降も続けていこう!』と約束しました。（I.M）



▲ 宮城県ミルクレディーもお手伝い

▼ 買い求めるお客さん



▲ 天候にも恵まれました



▲ 大変な人出

東京
支所発

第6回 東京支所管内 「会員女性職員研修会」開催！

酪農生産現場に係る専門知識を深め、職員間の交流を図るという目的のもと、東京支所管内の会員女性職員を対象とした「東京支所会員女性職員研修会」を11月19日(木)と20日(金)の2日間にわたり開催しました。6回目を迎えた今回の研修は、茨城県神栖市にある本会関連会社の飼料工場と港湾施設の見学を行いました。

視察した㈱日本ミルクプレイサー・全国酪農飼料(株)鹿島工場では、各工場の概要と製品製造工程・設備の視察を行いました。関東グリーンターミナル(株)では、港に入船していた飼料原料を積んだ本船に乗船することができ、荷揚げやサイロへの搬送方法について見学しました。さら

に港湾施設についても詳しく説明を受けました。

平成24年から神栖市に移転した全酪連分析センターでは、会員・生産者から要望を受け実施している自給飼料の分析について説明を受け、日常業務の様子を視察しました。分析設備などを目にするのができ、貴重な機会となりました。

今回の研修を通じ、普段直接お会いする機会の少ない会員職員の方々と交流をすることができ、今後の業務を行っていく中で大変有意義な時間を共有することができました。ご参加の皆様には、遠方より足を運んでいただきお疲れ様でした。また、ご協力いただきました皆様にも深く御礼申し上げます。(I.M)



▲ 今回乗船した「JOIE D号」



▲ 研修の様子



▲ ご参加の皆様、お疲れ様でした。これからも宜しくお願いいたします。

札幌
支所発

北海道酪青女、 山下牧場視察と祝賀会を開催！

10月29日(木)北海道酪農青年女性会議では秋季研修会を開催し、第44回全国酪農青年女性酪農発表大会経営の部にて農林水産大臣賞を受賞された山下雅博牧場の視察を行いました。この度内閣総理大臣賞をも受賞された山下牧場は、ご本人雅博さんと奥様知子さんが10年前に新規就農し、お二人で季節繁殖と放牧酪農による「限られた労働力でゆとりある経営」を確立された素晴らしい牧場です。今年の放牧は10月中旬をもって終了とのことで牛たちは全頭つなぎ牛舎にいましたが、夏場の放牧や圃場管理、季節繁殖について山下さんが丁寧に説明をされ、また参加した委員と情報

交換をするなど、和やかで充実した研修会となりました。

視察後は、山下雅博さんと、同じく第44回全国大会意見・体験の部にて審査委員長特別賞を受賞された竹田千鶴子さんの受賞祝賀会を開催しました。天塩町農業協同組合 荒瀬副組合長もお祝いに駆けつけ、参加者一同お二人の受賞を盛大に祝しました。(T.H)



大阪
支所発

兵庫県酪連 「ふれあい酪農体験授業」

11月10日(火)、兵庫県酪農農業協同組合連合会(塩見忠則代表理事長)は、兵庫県畜産課の協力を得て、宝塚市立安倉小学校において「ふれあい酪農体験授業」を行いました。今回対象となった児童は4年生3クラス91名です。授業は午前中2～4時限を利用し、まず、酪農教育ファシリテーターの西山牧場さん(三



▲シェイクシェイクのバターづくり

木市)が実物大の乳牛の模型などを使って「酪農のお話し」をされ、続いて(一社)日本乳業協会の入口さんが、牛乳の栄

養など「牛乳のお話し」を

され、生クリームからの「バターづくり」体験をご指導されました。そして、校庭に出て実際に子牛にミルクを飲ませたり、聴診器で子牛の心音を聞いたり、疑似搾乳体験をしたり、また、親牛に乾草を与えたりしました。給食では、自分で作ったバターをパンにつけて食べたそうです。

お母さん牛の体重は？児童の答えは30kgから始まって1,000kgへ。栄養がいっぱいある牛乳の大切さを勉強し、子牛に触れて本当に楽しそうでした。この子供たちは、きっと牛乳を飲み続ける、そのように確信できるような楽しい授業でした。(I.Y)

▼聴診器で子牛の心音聞きました





No.271
杉浦真司牧場
鳥取県西伯郡伯耆町

玲子さん、真司さん、坂本七瀬さん、お孫さんのしゅんちゃん、大山乳業駐在阿部職員 ▲

日本酪農



ゼロから築いた酪農



▲名峰「伯耆富士」大山と放牧場

地域の紹介

今回紹介する杉浦牧場は、中国地方の名峰「伯耆富士」大山の西麓に位置する鳥取県西伯郡伯耆町にあります。伯耆町はなだらかに広がる大山のすそ野地で、豊かな自然の中に、牧草地やネギや白菜などの野菜畑、りんごなどの果樹畑などが点在しています。また、西日本有数の高原リゾートとしてキャンプ場やゴルフ場、スキー場などもあり、多くの観光客が訪れます。



後述する大山乳業農協が運営する酪農体験・レジャー施設「大山まきば みるくの里」もこの伯耆町にあります。夏は涼しく過ごしやすいところですが、日本海に近いこともあって、冬はかなりの積雪があります。

伯耆町の酪農家戸数は現在6戸。杉浦牧場が所属する大山乳業農業協同組合（福田信一郎代表理事組合長）は、県下一円の酪農専門農協で、平成26年度の出荷乳量は55,791t、26年度末の出荷戸数140戸となっています。

経営の概況

杉浦牧場の労働力は、経営主の真司さん（57）、奥さんの玲子さん



▲放牧中の未経産牛

(55)、そしてパートとして手伝ってくれる嫁がれた娘さん坂本七瀬さん(23)の2.5人ということなんです。現在の飼養頭数は、経産牛25頭、未経産牛6頭、育成牛4頭となっています。自給飼料生産は、牧草地でイタリアン牧草を中心に16.5ha。稲WCSは、近隣の農家さん・大山乳業農協から供給してもらって3年目になるとのことです。26年度の出荷乳量は、218tでした。

まさにゼロからのスタート

それでは、取材の時間も限られていますし、杉浦牧場の沿革について伺いすると、ご主人の真司さんの口から出てきた言葉は「焼肉屋」。えっ？何ですか、それは。奥さんの玲子さんは大笑い。お二人は京都出身の非農家で、京都の焼肉屋で働いていて知り合いました。玲子さんが九州に行きたい、

住みたいと言ったら、真司さんは俺も行くとおっしゃったとか。ところが、鳥取県の親戚から遠い九州に行かなくても、鳥取に來いと誘われて、鳥取県で土地さがしを始めたそうです。真司さんは、酪農学園大学を卒業後、1年間アメリカへ留学し牧場実習をされたそうです。そして、日本へ戻ってきて何でもやったと。いっぱい職業を言われた

のですが、メモしきれなかったのが割愛させていただき、結果的には先ほどの「焼肉屋」となったわけです。仕事をしながら4年間鳥取へ出向いて土地を探されたそうです。

酪農、ゼロからのスタートは昭和63年。当時は生産調整もあり、土地を探して牛舎を建てると、厳しいスタートだったようです。真司さんは家で搾乳をして、ヘルパーで搾乳をして、あるいは草地や畑でオペレーターをして、家へ帰ってまた搾乳。ご夫妻には4人の子供さんがおられますが、玲子さんはそれこそ負んぶに抱っこで酪農をしていたとおっしゃっておられました。

杉浦牧場は、7年目に大災難に見舞われます。牛舎が火災となり、牛舎も牛も全部焼失してしまいました。周りのみなさんに良くしていただいて、やっぱりもう一度頑張らなければと思ったと、玲子さんはおっしゃっておられました。二度目のゼロからのスタートです。基礎を打ち、大工をして手作りで牛舎を建てたそうです。

形が出来てきた牧場

酪農27年目になる杉浦牧場。10年前に現在の場所に移転し、フリーバーン牛舎を建てパーラーを設置しました。これまで本当に険しい道でありましたと思われま。玲子さんはとても明るい方で、バルククーラーが入った時、二斗缶12本を冷却して出荷していたことを思うと、バルクって何て良いものなのだろう、と思ったと笑っておっしゃっておられました。そして、やっぱり『あきらめないこと』なんだよねと。辛いこと、苦しいことがいっぱいあったけど、



▲フリーバーンの牛舎

でも楽しかったとおっしゃっていました。ご主人の真司さんは、朴訥な感じの方ですが、牛舎施設からすれば頭数もこれくらいだろし、機械もひと通り揃ったし、杉浦牧場の形が出来てきたところと、おっしゃっておられました。

バリモー会

伯耆町の酪農家を中心に、鳥取県の西部地域で酪農に関する勉強会をほぼ月1回開いているとのこと。現在では県の普及所が日程などの世話役となり、大山乳業農協指導課や家畜保健衛生所、時には全酪連も巻き込んで勉強をしているそうです。

きっかけは、西日本酪農青年女性会議が平成23年秋に淡路島で開催した「第18回酪友フォーラム」に玲子さんが参加されて、徳島県の酪農女性の勉強会グループの発表を聞き、「これだ!」とひらめいたとのこと、地域の酪農家の方に呼びかけられたとか。真司さんは、あの頃は牛群検定の成績表もろくに読み取ってなかったしねと。

「バリモー会」〓 ばりばり儲ける会だそうです。集まるのは、酪農家・家保職員・講師・普及所担当者など10名程度で、活動は4年目となっています。みなさん勉強してきたことを経営に活かしているとのこと。玲子さんは、イタリアン牧草の年度ごとの収穫量を表やグラフにまとめて、「一生懸命やっても気象には勝てない。悔しい!」とおっしゃっておられました。

したが、そのような経営データの収集・分析も勉強の成果でしょう。

将来に向けて

真司さんは力んではおられませんでした。あと10年はあまり背伸びせずに酪農を続ける。10年経てば中学生の息子さんも成人しているし、TPPも含めて酪農環境ももっと見えてくるだろうから、とのことでした。TMR設備を導入するほどの頭数でもないし、息子が酪農を継ぐことになれば、また考えて進むことになるでしょう。玲子さんは、これからがもつとバリモーですと、笑っておられました。

おわりに

新規就農の原点を見たように思いました。酪農・農業ゼロからの出発です。辛いこと苦しいことがあっても『あきらめないこと』。ご夫婦のそれこそ二人三脚で、前向きにここまで築いてこられたことに、本当に感動し尊敬する思いでした。また、最後に玲子さんが「本

当に何もないところからここまでやってきたことが今思えば、一番の楽しみであり喜びです。」と話をされました。これは決して過去形ではなく、これから頑張ろうというとても意欲的(建設的)な姿勢を感じることができました。私も全酪連職員も本当に身の引き締まる思いです。

この度はご多忙のところ、貴重なお時間をいただき、快く取材に協力してくださいましたことに感謝申し上げます。杉浦牧場の発展とご家族のみなさんのご健勝とご多幸をお祈りいたします。

▶ 玲子さん専用?のトラクター



▲ 牛舎の全景

近未来の 酪農経営に備える

10年後のための
酪農経営戦略



全酪連は、2016年1-2月にコーネル大学名誉教授ラリー・E・チェイス博士を招聘し、全国6会場にて、全酪連酪農セミナー（平成27年度）を開催いたします。講師のチェイス博士は、永年に亘り、酪農現場における普及活動に多大なる貢献をされてきた方です。また、2014年の10月より全酪連技術顧問として、豊富な知識と経験に基づく有益な情報を発信して頂いています。今回の酪農セミナーでは、将来の酪農産業へ向けたメッセージに主眼を置いた「酪農現場に重要な技術（考え方）」を内容として予定しています。また、セミナーとは別に、研究者・指導者の皆様向けに「次世代の農場現場指導のあり方」と題したワークショップも開催します。是非ご参加ください。

講師略歴 ラリー・E・チェイス博士 (コーネル大学 名誉教授)

1966年 オハイオ州立大学・酪農学科卒
1969年 ノースカロライナ州立大学 修士号取得
1975年 ペンシルバニア州立大学 博士号取得
1975年 コーネル大学・畜産学部助教授
1981年 同 准教授
2004年 同 教授
2011年 全酪連 酪農セミナー講師
2014年 コーネル大学 名誉教授
2014年 全酪連 技術顧問

【これまでの研究及び指導領域】酪農現場における技術普及事業を主体に、普及員・飼料業界への乳牛栄養情報と訓練、コーネル大学栄養学会議長、飼料設計プログラムの技術支援とトレーニング、ハイブリットコーンサイレージの評価、トウモロコシ加工法による消化性への影響、CNCPS/CPM Dairyの現場応用及び農場の窒素排泄管理、世界14か国における講義・セミナーを実施

【現在の学会活動】米国酪農学会・米国畜産学会・米国家畜プロフェッショナル科学者学会・米国獣医栄養学会の委員と講師

【論文・記事執筆】酪農家向け普及文書483、学術誌論文57、書籍執筆11、学会論文218、雑誌寄稿75

日時と場所

1月25日(月)	熊本セミナー	火の国ハイツ
1月28日(木)	帯広セミナー	ホテル日航ノースランド帯広
1月29日(金)	全酪連ワークショップ	ホテル日航ノースランド帯広
2月1日(日)	岡山セミナー	岡山国際交流センター
2月3日(火)	名古屋セミナー	名古屋通信会館
2月5日(木)	仙台セミナー	フォレスト仙台
2月8日(日)	那須セミナー	ホテルエビナール那須

各会場とも開会10:00、閉会16:00となります

参加費 1名様 ¥5,000 (テキスト・昼食代含む)

対象 酪農家・組合役職員・公的指導機関、あるいは研究者・獣医師・コンサルタントの方々

内容

酪農セミナー2016

【第1章】酪農産業の過去・現在・未来

- 日米の酪農業界の変遷、将来に向けた準備・教育プログラム

【第2章】農場経営

- 世代交代・農場継承の選択肢
- 農場の自動化と選択肢
- 農場の財務管理

【第3章】乾乳牛と子牛

- 乾乳牛に対する暑熱対策の方法とその効果
- 初乳に関する新情報

【第4章】高泌乳牛群の飼養管理

- 高泌乳牛の特性と栄養・飼養管理
- 事例検討と先人の格言
- 最新栄養情報・新しいNDF概念

ワークショップ2016 ～次世代の酪農現場指導～

【第1章】農場訪問のあり方

- すべき事、してはならない事
- 農場訪問する意味と注意点・着眼点

【第2章】普及員、企業栄養士、コンサルタントの酪農現場における役割

- 普及員と企業・コンサルタントの立ち位置・役割の違い、米国事例紹介
- 目標設定とそれぞれのすべき事・すべきでない事
- 人的資源

【第3章】CNCPSの過去・現在・未来

- CPM Dairy, CNCPS, AMTSとNDS その歴史と将来
- CNCPSの生い立ち、CPM Dairyの功績
- CNCPS v6.1からv6.5で変わったこと
- CNCPS v7は？

お申し込み・お問い合わせは、最寄の全酪連支所まで



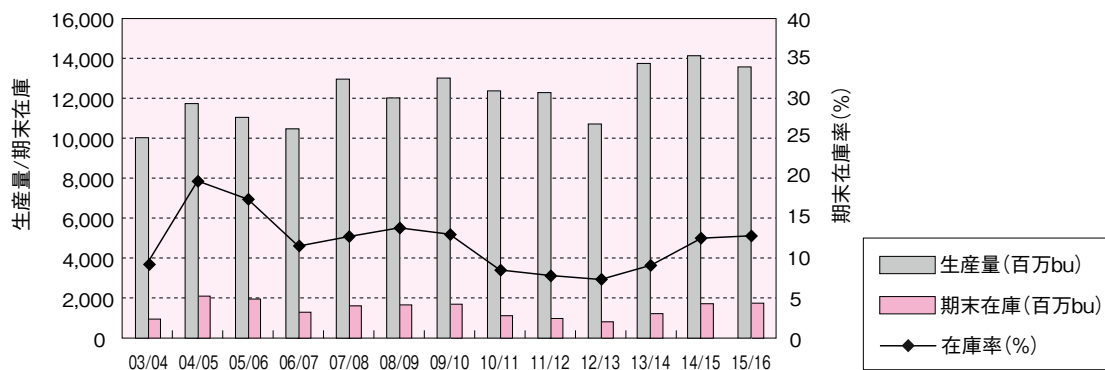


原料情勢

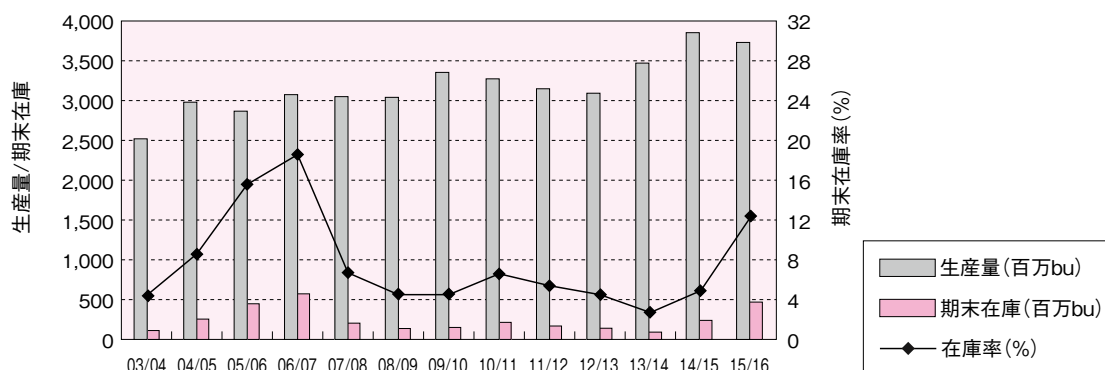
平成27年11月

11月10日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	【14/15年度】 作付面積90.6百万エーカー、単収171.0bu/エーカー、生産量142億1,600万bu、総需要量137億4,800万bu、期末在庫17億3,100万bu、在庫率12.6% 需給両面で変化なし。
	【15/16年度】 作付面積88.4百万エーカー、単収169.3bu/エーカー、生産量136億5,400万bu、総需要量136億5,500万bu、期末在庫17億6,000万bu、在庫率12.9% 需要面が減少し、供給面は増加した(期末在庫は増加)。
トウモロコシ 相場動向	先月の発表以降の動きは、小麦の上昇につられる場面はあったものの、引き続き産地で天候に恵まれ、収穫も順調に進み、軟調に推移した。発表では、単収が予想を上回る169.3bu/エーカーに上方修正され、生産量が増加し、反対に需要面では飼料需要以外は全て下方修正され、期末在庫は事前平均予想を上回った。米国産トウモロコシの輸出競争力は他産地に押され、輸出成約高は昨年比で減少している。期末在庫は米国だけでなく、世界的にも増加しており、特に中国では国内トウモロコシが過剰在庫になっている。このため、今後のシカゴ相場は、上値の重い展開が続く軟調に推移していくと思われる。
11月10日発表 米国農務省 大豆需給予想	【15/16年度】 需要供給両面で増加した。特に単収がベルト地帯北部・西部豊作の影響で予想を大きく上回る結果となり、期末在庫は前月比40百万bu増加となった。発表内容は市場の事前予想を上回る数字となり、発表直後に大きく売られ、前日比9¢安の864-1/2¢(11月限)で当日の取引を終えている。期末在庫4億6,500万bu、在庫率12.4%
大豆相場動向	国内産大豆粕は、良好な搾油採算の影響を受け、依然として搾油は前年対比約110%で推移している。米国中西部で順調に収穫が進んでいること、南米においても天候に大きな影響がないことからシカゴ相場も下げており、これを受けて国内産相場も軟調に推移している。輸入品については、主要輸入先の中国で養鶏関係の需要が回帰していることから、横ばい展開となっているが、国内産・輸入品を総じてみると弱含む展開となっている。
糖類	【一般フスマ】12月の粉価(小麦粉)改定は値下げの見通しとなっているため、買い控えが予想されフスマの発生量は減少が見込まれる。10-12月期はグルテンフィードが値上げであったのに対し、フスマは据置きであったことから需要の置き換えが起きている模様。総じて年末には需給が引き締まることが予想される。 【グルテンフィード】国内スターチメーカーでは季節的な面から不要期を迎えるため、フィードの発生量は減少が見込まれる。10-12月期価格改定は値上げとなったことから需要の減少が予想され、一方で中国産の輸入品も徐々に入船してきている。しかし繰越在庫が少ない中、需給はタイトな状況が継続するとみられており、特に年末年始の受渡には注意が必要となる。
海上運賃	原油価格の下落、中国の環境問題からの石炭規制を背景に軟調に推移している。安値圏で推移しているが、北米大陸からの穀物輸出や季節的な要因などで船腹需要の引き合いが盛り上がっていない。市場では引き合いが活発化してくると楽観視されており、今後の相場は反発するものと思われる。

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



米国産大豆生産量と期末在庫の推移



輸入粗飼料の情勢

平成27年11月

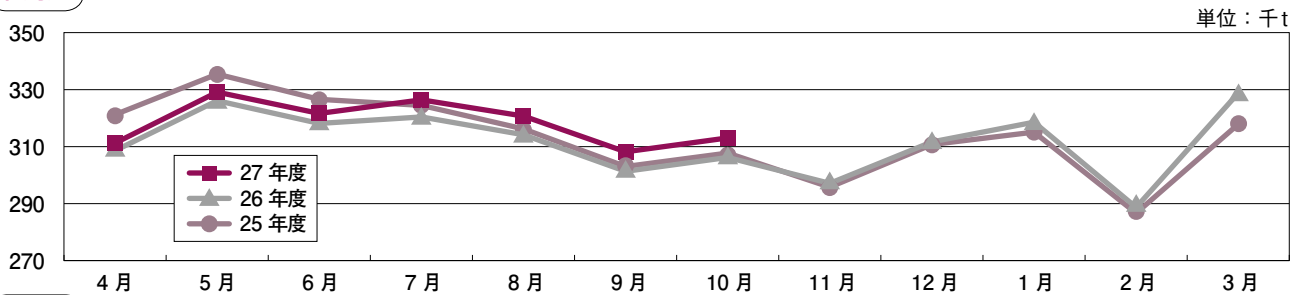
北米コンテナ船 フレート	米国当局の統計資料によると、2015年7月単月のアジアから北米に向けたコンテナ貨物の数量は前年度比3.2%増加、対して北米からアジアに向けた貨物の数量は前年度比1.4%減少となっており、貨物の総量としては米国向けとアジア向けとの間に約2.5倍の開きが出ている。今後、北米からの輸出は果実関係を主に増えるが、北米側の輸入も年末商戦に向け増加するため、輸出入のバランスは是正されない。加えて各船社とも大型船の導入が進んでおり船腹の余剰感が出ているため、引き続き北米出しアジア向け貨物の確保は各船社にとって重要なものとなっている。よって、今後も北米出しの海上運賃は低位安定傾向にあると思われる。
ビートパルプ	【米国産】日本向けの主産地（ミネソタ州・ノースダコタ州）では例年より若干早い8月中旬頃より収穫が始まり、順調に進捗している。USDA（米国農務省）の報告によると、作付面積は前年並みだが夏場の天気に恵まれたため作柄は良好で、収穫量は前年を上回っているとの事。
アルファルファ	10月にUSDAより発表されたアルファルファの15年産生産量予想は、米国西海岸7州（ワシントン、オレゴン、カリフォルニア、ネバダ、ユタ、アイダホ、アリゾナ）で計1%の増加となった。大きく生産量を落としたのは12%減のネバダ州、6%減のカリフォルニア州で、これらの州では干ばつによる水不足に加えて、国内からの需要が昨年に比べ弱まったことで生産意欲が減少したと考えられる。一方、単収量を見るとカリフォルニアは昨年並みで、水不足はシーズンを通して懸念されていたものの、その後天候が安定し、例年より刈取り回数が増えたのも一因で作付面積の減少を収量増でカバーした形になった。このように、西海岸全体の生産量はほぼ昨年並みだったが、総じて天候は降雨・高温などにより不安定で、プレミアム品の供給量は昨年に比べ減少している。輸出不適合な品質の発生も例年並みにあり、これらの相場を支えていた国内の肥育・乾乳向けの需要は、一部他の安価な副産物に取ってかわっており、プレミアム品と低級品との価格差が開き始めている。 一方、米国からの輸出に目を向けると、中国向けが輸出量の約半数近くまでシェアを拡大し、輸出市場における中国の存在感は確固たるものになってきている。中国向けの品質は、その多くは日本向けの品質とは重複しないものだが、徐々に高成分のものへの需要も増え始めているので注視が必要。一時は日本向け以上の数量が向けられていたUAEは、昨年の産地価格高騰以降、ヨーロッパ産中心の買付に戻りつつある。
チモシー	【米国産】主産地ワシントン州での刈取りはすべて終了している。15年産の傾向は、1番刈の収穫期にほとんど降雨がなく適期に刈り取られたが、生育期に降雨が多く倒伏などによる茶葉混入が見受けられ、上級品の発生は比較的少なく中級品の発生が中心となった。2番刈は安定した天候で推移したため低級品の発生は少ないが、例年より収穫期の気温が高かったため茶葉の混入も散見される。 【カナダ産】南部レスブリッジ地区では2番刈が終了している。今年度の2番刈は例年より茶葉が多く、収穫期の雨あたりもあり、上級品の発生は限られている。中部クレモナ地区では今シーズンの収穫が終了している。スモールバールからビッグバールへの生産に移行する生産者が増えており、地域のおよそ半分11,000エーカーがビッグバールになったとの情報も出ている。単収は地域によって差はあるものの早魃の影響で例年比約20%減と予想されている。中級品が中心の発生となり、グレードの価格差は例年より広がっている傾向である。
スーダングラス	主産地での収穫は終了している。例年になく降雨が多く、その影響により過去2年に比べ作柄が悪かったため、ほとんどのサプライヤーの取り扱い数量は14年産に比べ微減する見込みである。今年はほとんどの圃場で大なり小なり茶葉の混入が見られる作柄となり、例年、出回る事が少ない茶葉が非常に多いものの一部が日本へ出荷され始めており、それらの品質については注意が必要となる。
クレイングラス	15年産クレイングラスの作付面積は、14年産よりやや下回るものの大きな減少はなく、生産量も堅調な需要をカバーするに十分と思われる。今年は異常な天候パターンの影響を受け過去2年に比べ低級品の発生も多く見られたが、これらは韓国中心に出荷されている模様。
ストロー類	15年産の収穫は終了している。今年はやや早魃傾向で収量が少ないと言われてきたが、輸出向けの供給力は十分である。加えて韓国からの引き合いも強くなり、またバミューダストローの価格下落の影響で、価格は引き続き軟化傾向にある。
オーツヘイ	【西豪州】刈取りは既に終了しており、ベアリングもほぼ終了している。今シーズンの収穫期は一貫して晴天に恵まれ、生産されたオーツヘイの大部分は上級品となっている。産地ではオーツ麦の生産も増えており、それに伴いオーツストローの発生も増加すると予想されている。西豪州全体での予想生産量は、28～30万トン。 【南豪州】刈取りは既に終了しており、ベアリングもほぼ終了している。西豪州と同様、収穫期の天気に恵まれ、収穫されたオーツヘイの大多数が上級品で雨あたりなどの低級品の発生はわずかな状況となっている。南豪州全体での予想生産量は、27～29万トン。 【東豪州】刈取りは既に終了し、ベアリングは後半に差し掛かっている。他の2州同様に上級品の発生がほとんどとなっているが、他2州に比べ降雨が少なく、単収が非常に少なくなっている。東豪州での作付面積は例年並みだったが、降雨不足により生産量は13～16万トン程度に留まると予想される。

生乳受託販売乳量

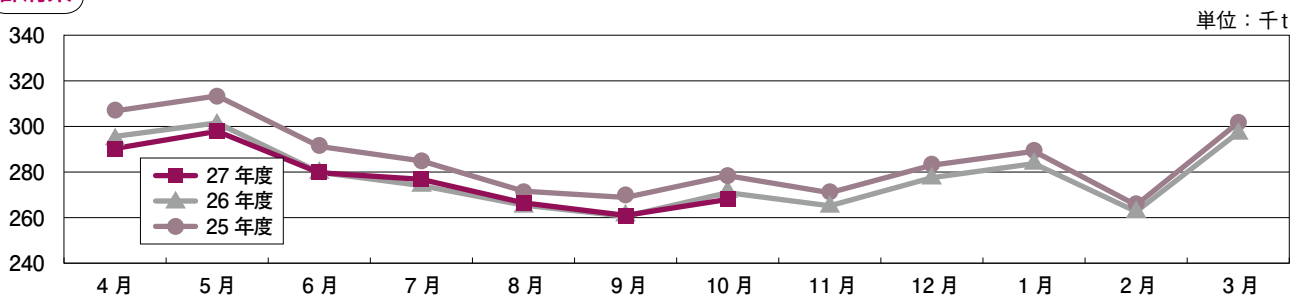
受託販売乳量

全国 581,052t で、前年同月比 3,882t(0.7%) 増加
 都府県 267,989t で、前年同月比 2,976t(1.1%) 減少
 北海道 313,063t で、前年同月比 6,857t(2.2%) 増加

北海道

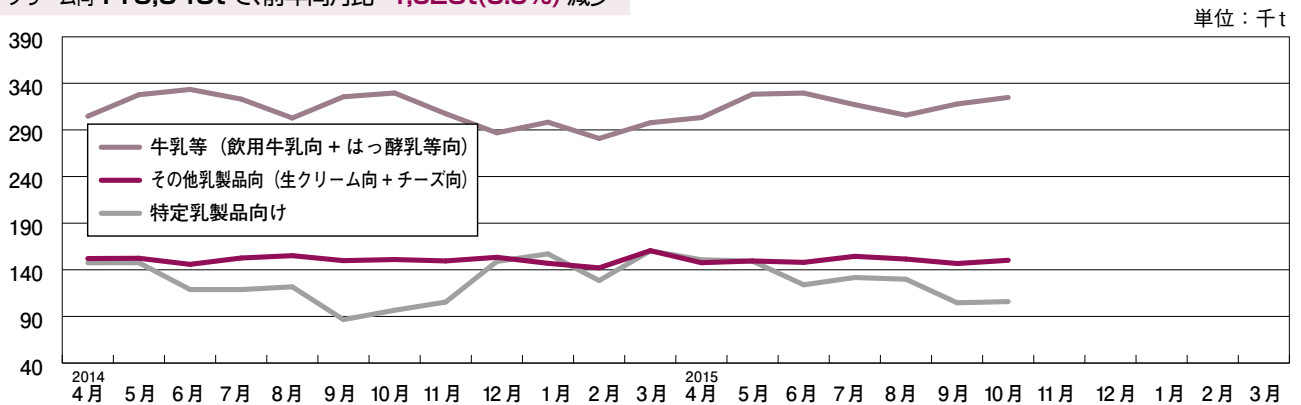


都府県



用途別販売数量

飲用向 287,368t で、前年同月比 6,171t(2.1%) 減少
 はっ酵乳向 37,482t で、前年同月比 1,468t(4.1%) 増加
 クリーム向 115,543t で、前年同月比 1,028t(0.9%) 減少
 チーズ向 34,716t で、前年同月比 285t(0.8%) 増加
 特定乳製品向 105,943t で、前年同月比 9,328t(9.7%) 増加



各地の需給動向

- 【東北】10月生乳生産は前年比99.0%。月間通して域内需要好調。飲用牛乳向けは98.2%、はっ酵乳向けは107.5%、特定乳製品向けは93.8%となった。
- 【関東】月間生産量は100.0%であるが、下旬より前年比を下回り推移している。天候が良く、処理は好調に推移し、飲用牛乳向け処理量は101.0%。特定乳製品向けは95.5%となった。
- 【東海】生産は前年比96.9%。前月同様、日量においても横ばいの推移となっている。飲用牛乳向けは93.2%、はっ酵乳向け128.2、特定乳製品向けは91.6%となった。
- 【近畿・中国・四国】生産は近畿98.6%、中国100.6%、四国94.5%。月内は日量横ばいからやや減少傾向の推移。処理は飲用牛乳向けにおいて、近畿98.7%、中国99.3%、四国93.2%となった。
- 【九州】生産は前年比98.7%。前月は下旬まで前年を上回っていたが、今月上旬から割って推移。処理は下旬から気候要因で伸びた。飲用牛乳向けは96.9%、はっ酵乳向けが105.7%、特定乳製品向けは100.5%となった。

用途別生乳処理量

単位：千t

年月	生乳生産量	用途別処理量計						
		牛乳等向 ①	乳製品向				その他乳製品向	
			特 定 乳製品向 ②	その他乳製品向				
				ク リー ム向 ③	チ ーズ向 ④			
2014. 4 月	627	622	319	303	148	155	112	43
5 月	650	645	342	303	148	155	112	44
6 月	619	614	345	269	120	149	108	41
7 月	618	613	337	276	120	156	113	43
8 月	600	595	317	278	126	153	111	42
9 月	583	578	342	236	88	148	109	39
10 月	598	593	346	247	100	148	112	36
11 月	584	579	325	254	107	147	112	35
12 月	613	608	306	302	151	152	111	40
2015. 1 月	624	619	314	304	158	146	105	41
2 月	573	568	299	269	128	142	101	40
3 月	642	637	319	319	159	160	117	43
年 度 計	7,331	7,271	3,910	3,361	1,552	1,810	1,324	486

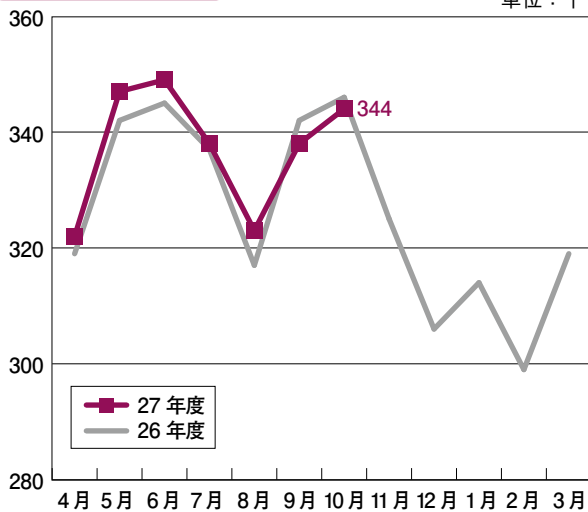
年月	生乳生産量	用途別処理量計						
		牛乳等向 ①	乳製品向				その他乳製品向	
			特 定 乳製品向 ②	その他乳製品向				
				ク リー ム向 ③	チ ーズ向 ④			
2015. 4 月	625	620	322	298	148	150	114	37
5 月	649	644	347	297	151	146	109	37
6 月	625	620	349	271	126	145	107	38
7 月	629	624	338	286	133	153	110	43
8 月	608	604	323	281	133	148	107	41
9 月	593	588	338	250	107	143	107	36
10 月	603	599	344	255	107	148	111	37
11 月								
12 月								
2016. 1 月								
2 月								
3 月								
年 度 計	4,332	4,299	2,362	1,938	904	1,034	765	269

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

単位：千t未満を四捨五入した数値を標記しているため、各項目の合計と表の合計とが合致しない場合がある

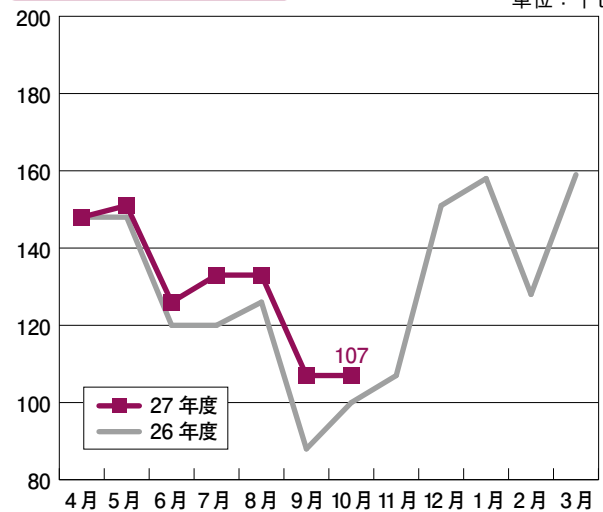
① 牛乳等向処理量

単位：千t



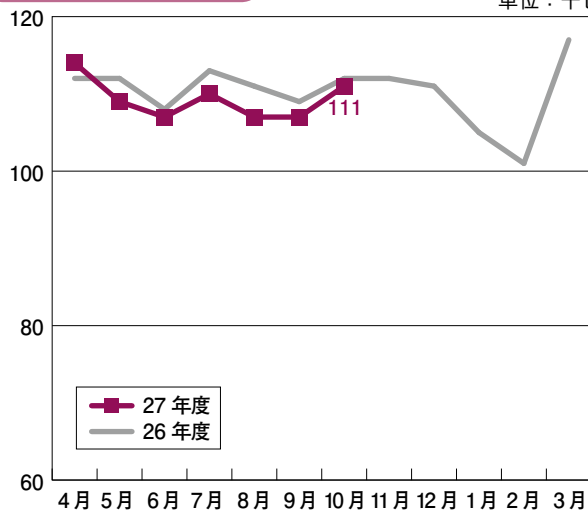
② 特定乳製品向処理量

単位：千t



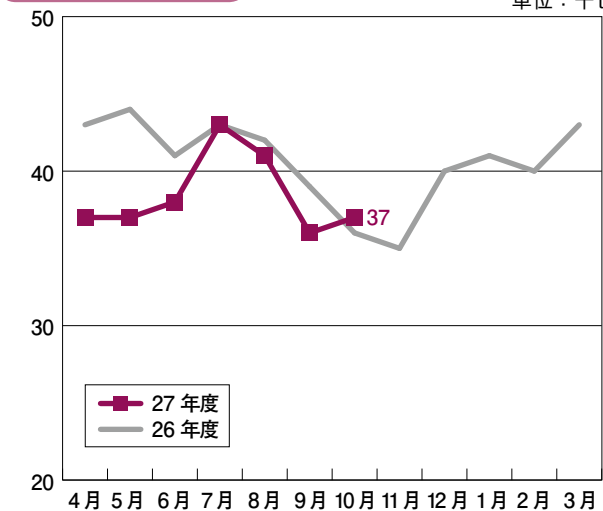
③ クリーム向処理量

単位：千t



④ チーズ向処理量

単位：千t



特定乳製品（脱脂粉乳・バター）の国内生産及び出回り量の推移

※生乳需給動向の指標となる特定乳製品の生産及び消費の動向です。

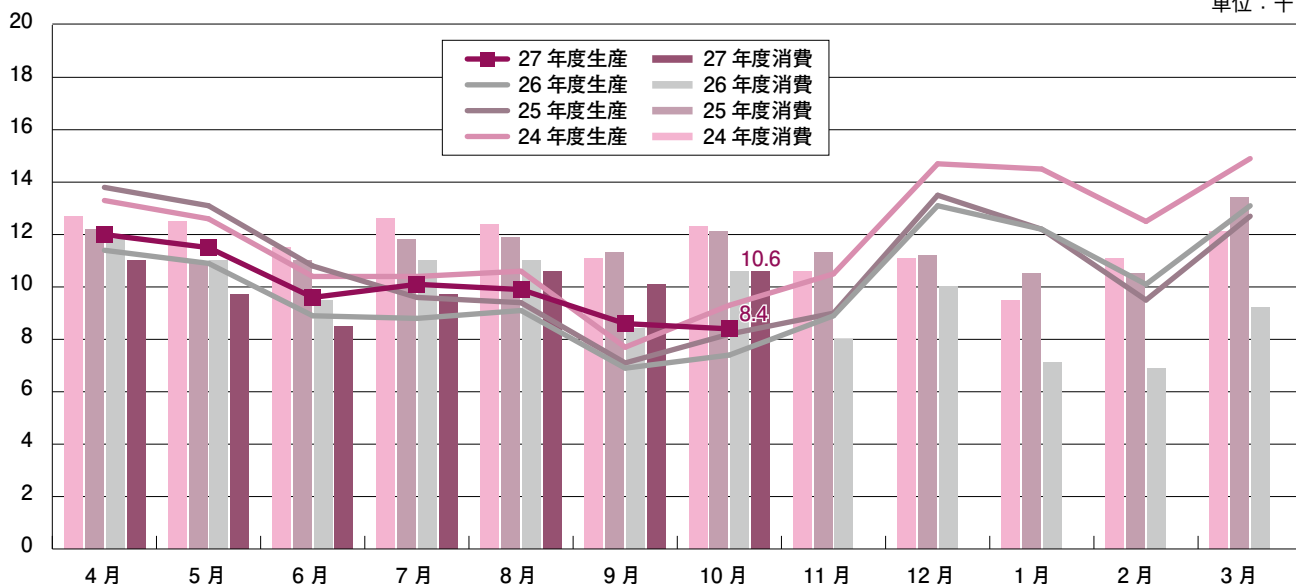
単位：千t

年月	脱脂粉乳生産量	脱脂粉乳消費量	バター生産量	バター消費量	年月	脱脂粉乳生産量	脱脂粉乳消費量	バター生産量	バター消費量
2014. 4月	11.4	11.8	6.3	6.4	2015. 4月	12.0	11.0	6.1	5.7
5月	10.9	11.0	5.7	5.0	5月	11.5	9.7	6.0	5.1
6月	8.9	9.5	4.9	4.7	6月	9.6	8.5	5.0	5.1
7月	8.8	11.0	4.7	5.7	7月	10.1	9.7	5.3	4.2
8月	9.1	11.0	4.7	5.2	8月	9.9	10.6	5.2	5.4
9月	6.9	8.4	3.5	3.7	9月	8.6	10.1	4.2	3.4
10月	7.4	10.6	3.9	5.2	10月	8.4	10.6	4.3	3.6
11月	8.9	8.0	4.0	4.0	11月				
12月	13.1	10.0	5.7	5.6	12月				
2015. 1月	12.2	7.1	6.7	4.4	2016. 1月				
2月	10.1	6.9	5.2	5.0	2月				
3月	13.1	9.2	6.2	6.1	3月				
年度計	120.8	114.5	61.5	61.0	年度計	70.2	70.2	36.2	32.6

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」、農畜産業振興機構、農林水産省生産局畜産部牛乳乳製品課調べ

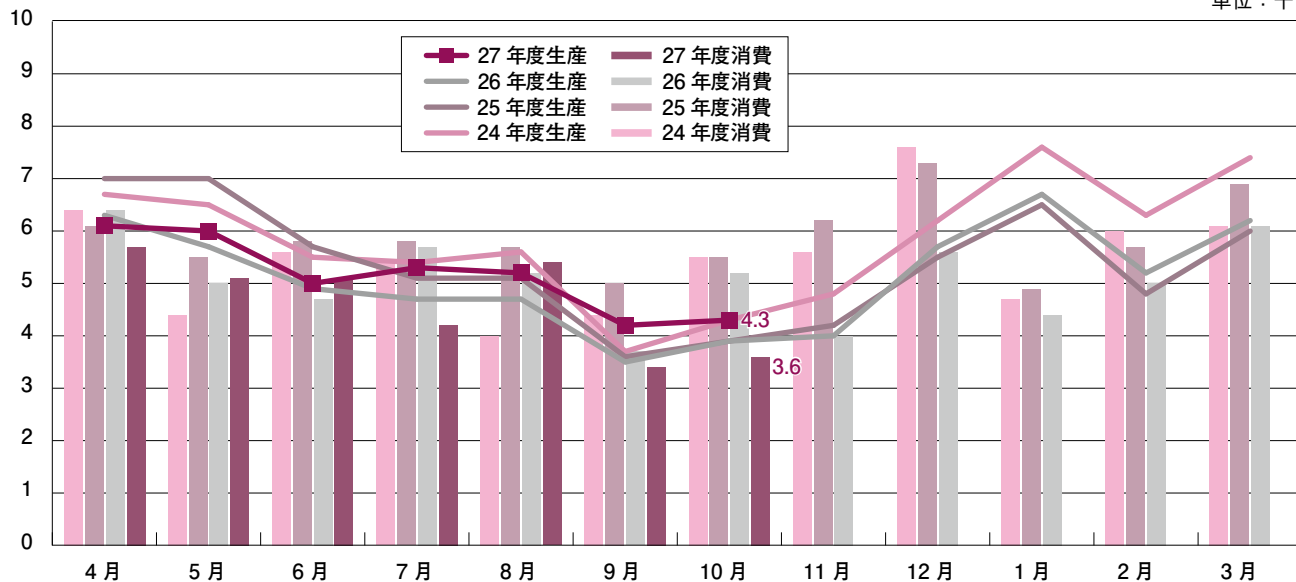
脱脂粉乳の生産及び出回り量推移

単位：千t



バターの生産及び出回り量推移

単位：千t

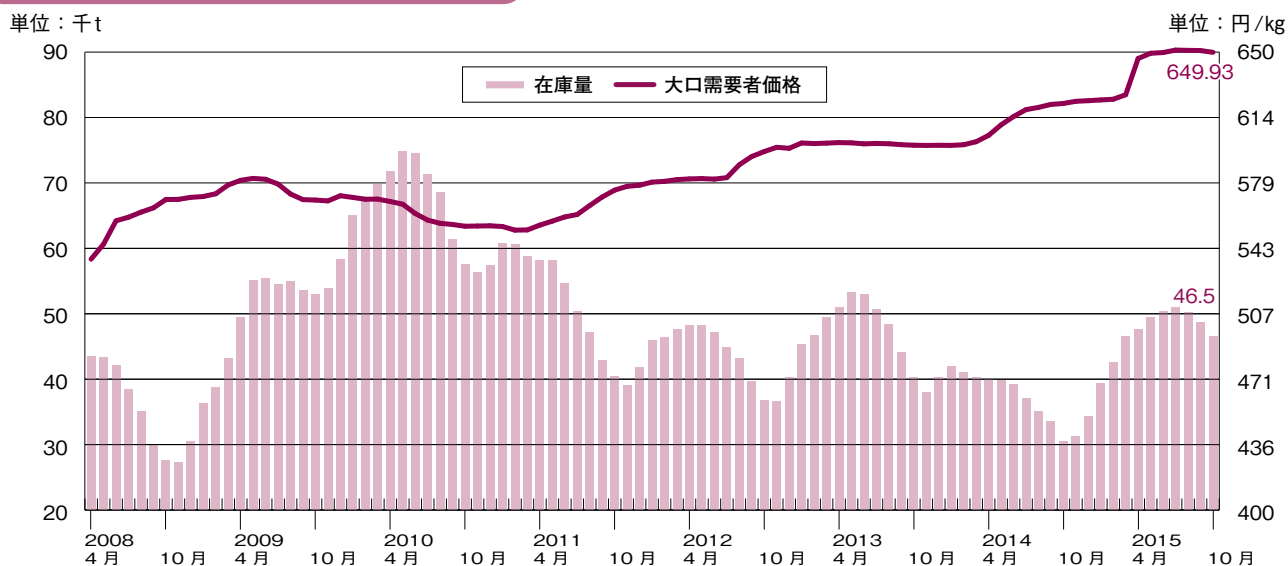


脱脂粉乳・バターの国内在庫及び大口需要者価格の月別推移

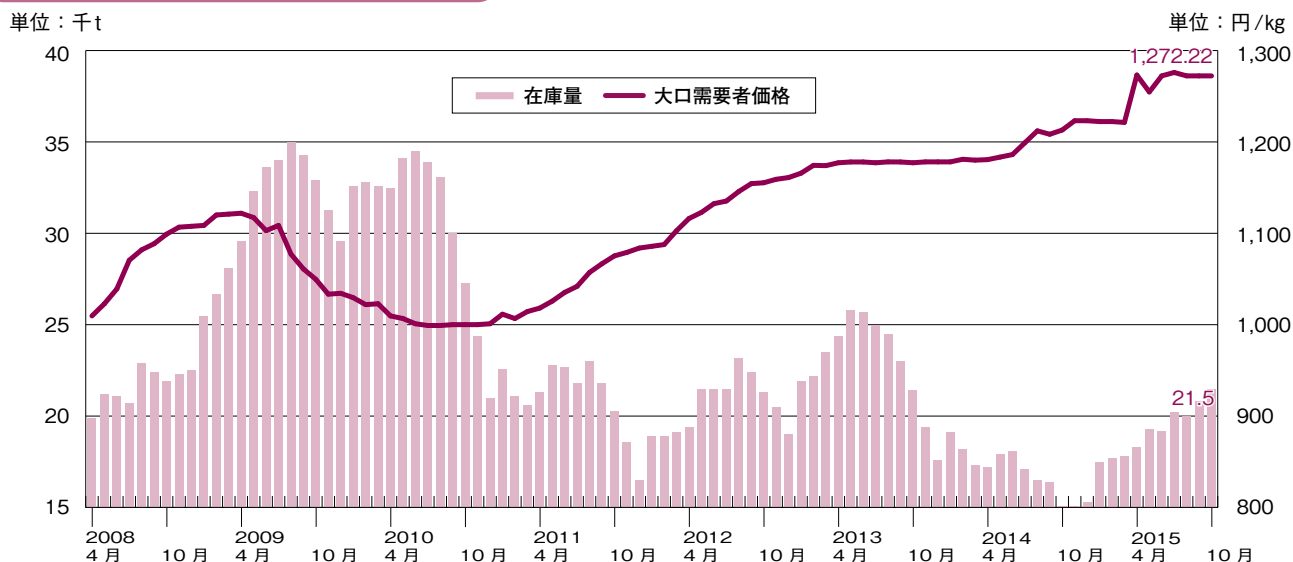
区 分	バター		脱脂粉乳		区 分	バター		脱脂粉乳	
	期末在庫量	大口需要者価格	期末在庫量	大口需要者価格		期末在庫量	大口需要者価格	期末在庫量	大口需要者価格
年月	千t	価格 円/kg	千t	価格 円/kg	年月	千t	価格 円/kg	千t	価格 円/kg
2014. 4月	17.2	1,181	39.9	604.56	2015. 4月	18.3	1,273	47.6	646.56
5月	17.9	1,183	39.8	610.30	5月	19.3	1,255	49.4	649.41
6月	18.1	1,186	39.2	614.85	6月	19.2	1,272	50.4	649.81
7月	17.1	1,199	37.0	618.63	7月	20.2	1,276	50.9	651.15
8月	16.5	1,212	35.1	619.85	8月	20.0	1,272	50.2	651.00
9月	16.4	1,208	33.6	621.48	9月	20.8	1,272	48.7	650.89
10月	15.1	1,213	30.4	622.00	10月	21.5	1,272	46.5	649.93
11月	15.1	1,223	31.3	623.19	11月				
12月	15.3	1,223	34.3	623.52	12月				
2015. 1月	17.5	1,222	39.4	623.93	2016. 1月				
2月	17.7	1,222	42.6	624.30	2月				
3月	17.8	1,221	46.5	626.78	3月				
年度計	201.7	—	449.1	—	年度計	139.3	—	343.7	—

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」、大口需要者価格

脱脂粉乳 国内在庫・大口需要者価格推移



バター 国内在庫・大口需要者価格推移



北海道 乳牛産地情報

平成27年12月1日現在

札幌支所 TEL 011-241-0765
 釧路事務所 TEL 0154-52-1232
 帯広事務所 TEL 0155-37-6051
 道北事務所 TEL 01654-2-2368

価格状況 ▲……強含み ▼……やや強含み →……横這い ⇩……やや弱含み ↓……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	27~35	▲	札幌管内の11月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計99.1%、累計で98.5%、苫小牧管内月計で100.8%、累計で100.4%の実績となっている。 12月の初妊牛動向は2月~3月のF1腹が中心となる。大型農場の導入や道内の育成農家の育成牛購買も多く入っており、初妊牛・育成牛ともに引き合いは強くなるものと思われる。しかし、年末の組勘調整のため出品される頭数は前年並みにあると思われる。確実に確保するためにも、早めのご注文をお願いいたします。
	初妊牛	53~60	▲	
	経産牛	43~48	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	35~40	→	根釧管内の11月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で104.2%、累計で102.1%、中標津管内月計で100.8%、累計で100.6%の実績となっている。 12月の初妊牛動向は、3月分娩予定のF1腹、ホルヘ選別精液授精の牛を中心とした動きとなる見込み。当事務所管内では地元・府県向けともに牛が動いており、堅調な相場となり、例年よりも早い荷動きとなっている。搾乳意欲が強いこと、乳価値上げや、子牛や廃用牛の高値により農家の経営状況が良いことから「組勘調整のために販売される牛が減るのでは」との話も聞かれる。ご希望の条件の牛を確保するためにも、早めの注文をお願いいたします。
	初妊牛	57~63	→	
	経産牛	45~50	→	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	30~38	▼	帯広管内の11月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で104.6%、累計で104.4%の実績となっている。 12月の初妊牛動向は、庭先での分娩は2月下旬~3月中心の荷動きとなる見込み。市場価格の高値推移を受け、2月上旬の分娩腹は市場で既に販売済みの農家が多く、荷動きがかなり早くなっている。早くも春産みの腹も出回るようになり、年明けの相場を意識したものとなり、価格は堅調に推移するものと思われる。育成牛もホルヘの頭数減少を受けて引き合いはさらに強まる傾向である。12月中旬頃には年内の購買を終了する予定であるため、年内の導入希望がありましたら、早めの注文をお願いいたします。
	初妊牛	55~62	→	
	経産牛	45~50	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	35~40	→	道北管内の11月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で101.4%、累計で101.0%、北見管内月計で101.0%、累計で100.6%の実績となっている。 12月の初妊牛動向は、2月~3月分娩腹が中心となる。先月同様に自家保留牛と道内外の大型牧場の導入が続いていることから、資源・価格ともに厳しい状況が続いている。F1腹を中心に動きますが、毎月のことながら動きが早いこと、余裕を持った導入計画をされますよう、お願いいたします。
	初妊牛	55~62	→	
	経産牛	45~50	→	
道内総括	育成牛(10-12月令)	33~40	▲	道内の11月中旬までの生乳生産量前年比は102.1%、累計で101.7%の実績となっている。 12月の初妊牛動向は、例年であれば2月~3月上旬分娩腹くらいまでが動きますが、今年は3月末分娩腹まで動く気配がある。全道的に自家保留牛が多く、組勘調整のため販売される頭数も少ない見込みである。一方、道内外の大型牧場による導入は活発なため価格も高値で推移する見込み。年末は輸送関係の調整もあるため、早めの注文をお願いいたします。また、年明けについても出回り頭数が今以上に厳しくなると予想されることから、年内のうちに導入されますよう、重ねてお願いいたします。
	初妊牛	56~62	▼	
	経産牛	45~50	→	

※上記相場は、血統登録牛(中クラス)の庭先選畜購買による予想相場です。庭先選畜購買のため、市場購買とは異なり、価格差が生じます。

今月の表紙

やーめーて!

今月の表紙は、「第6回酪農いきいきフォトコンテスト」(第44回全国発表大会にて開催)で入選に輝いた作品「やーめーて!」(岡山県美甘 知里氏 撮影)です。元来の人懐っこさから、遊んでほしい気持ちの女の子よりおっきいわんぱくな牛さんのようです。



shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

▼一年ご愛読いただき、本当にありがとうございました。魅力ある紙面づくりを目指してこれからも取り組んで参りますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

▼今年も残すところあとわずかとなり、やり残したことをひとつひとつ片づけている毎日です。皆様方におかれましては、良い年をお迎えください。

編集後記



平成27年12月10日発行(毎月1回10日発行)

ZENRAKUREN
MEMBER'S INFORMATION

全酪連会報 12月号 No.603

●編集・発行人 大森 一幸

●発行 全国酪農業協同組合連合会

〒108-0014 東京都港区芝四丁目17番5号

TEL 03-5931-8003

http://www.zenrakuren.or.jp/

●1月号	新年のご挨拶 2 全国酪農業協同組合連合会 代表理事会長 砂金基太郎 農林水産省生産局長 松島浩道 嫁婿が語る酪農の魅力 / 太田友莉子さん 6 酪農業に対する理解醸成活動報告 8 組合が取り組む後継者支援事業(みらい塾・札幌支所管内) 11 ロイヤル・ウィンター・フェア視察と米国・カナダ酪農視察研修報告(後編) 12 購買部だより / 第14回全酪連内牛枝肉共励会、最近の購買部の取り組みについて 15 酪農トピックス / 「第3回関東甲信越酪農青年女性会議親善ソフトボール大会」を開催!(東京)ほか 17 日本酪農見て歩紀 / 熊本県阿蘇市 渡辺里志牧場 20 広告 / 全酪連 酪農セミナー2015 / ワークショップ2015 開催のご案内 23 原料情勢・輸入粗飼料の情勢(平成26年12月) 24 平成26年度11月 生乳受託販売乳量 26 今月の表紙 / 日課 27 今月の子どもギャラリー / 福田中学校(西日本)3年 河内香緒里 28
------	--

●2月号	平成25年度会員概況調査より 2 若手後継者の本音 / 方川信博さん 4 管理部だより / 平成26年度決算に向けて 決算実務上の留意点(会計編) 6 全国酪農青年女性会議 平成26年度研修会 11 酪農トピックス / 「らくのうまーズ市場」搾乳素牛セールの初せり開催される(福岡)ほか 12 日本酪農見て歩紀 / 兵庫県南あわじ市(南グリーンファーム) 13 原料情勢・輸入粗飼料の情勢(平成27年1月) 16 平成26年度12月 生乳受託販売乳量と用途別生乳処理量ほか 18 人事異動 22 平成27年 各地域酪農青年女性(婦人)会議 酪農発表大会 22 今月の表紙 / 小笠原牧場 23 今月の子どもギャラリー / 練馬区立大泉東小学校(関甲信)4年 田中勝大 24
------	---

●3月号	嫁婿が語る酪農の魅力 / 前田大輔さん 2 管理部だより / 平成26年度決算に向けて 決算実務上の留意点(税務編) 4 酪農トピックス / 「平成26年度ふくおか県酪農青年女性会議スポーツ交流会」開催(福岡)ほか 9 酪政連活動報告 11 日本酪農見て歩紀 / 福岡県福井市 津津井萬牧場 12 作品募集のお知らせ 15 原料情勢・輸入粗飼料の情勢(平成27年2月) 16 平成27年度1月 生乳受託販売乳量 18 今月の表紙 / 担当牛「カリン」ちゃんと 19 今月の子どもギャラリー / 長尾小学校(西日本)3年 原田千咲月 20
------	---

●4月号	若手後継者の本音 / 岡田崇さん 2 平成27～29年度 第十次中期事業計画(案) 4 組合が取り組む後継者支援事業 / 「育成牛の飼養管理について」研修会(東京支所管内) 7 平成26年度 幹事・役員研修会 8 監査室だより / 監事監査と監事の責任について① JA全国監査機構 白石幸人氏 講演録 10 酪農トピックス / 中部代表は福井邦仁さん、藤田千恵子さんに決定! —第44回中部酪農発表大会開催—(名古屋)ほか 16 作品募集のお知らせ 20 日本酪農見て歩紀 / 鹿児島県南九州市 大渡康弘牧場 21 原料情勢・輸入粗飼料の情勢(平成27年3月) 24 平成27年度2月 生乳受託販売乳量と用途別生乳処理量ほか 26 今月の表紙 / 牧場へようこそ 30 今月の子どもギャラリー / 美里小学校(九州)1年 小森亜実 31 広告 / 第44回 全国酪農青年女性酪農発表大会 32
------	---

●5月号	嫁婿が語る酪農の魅力 / 三浦清斗さん 2 新たな食料・農業・農村基本計画について / 農林水産省大臣官房政策課 4 日本酪農見て歩紀 / 北海道枝幸町 中野勤牧場 7 監査室だより / 監事監査と監事の責任について② JA全国監査機構 白石幸人氏 講演録 10 酪農トピックス / 郡司貴大さんと小見幸江さんが全国大会へ —「第44回 関東甲信越酪農発表大会」開催—(東京)ほか 20 酪政連活動報告 23 原料情勢・輸入粗飼料の情勢(平成27年4月) 24 平成27年度3月 生乳受託販売乳量と用途別生乳処理量ほか 26 今月の表紙 / お手伝い ありがとうね たすかる 30 今月の子どもギャラリー / 玉祖幼稚園(西日本)5歳 松永和奏 31 広告 / 第44回 全国酪農青年女性酪農発表大会 32
------	--

●6月号	第44回 全国酪農青年女性酪農発表大会発表者決定! 2 組合が取り組む後継者支援事業 / 組合・酪農婦共催の「酪農研修会」(仙台支所管内) 6 若手後継者の本音 / 増井友幸さん 8 酪農トピックス / 山縣泰介さん・片岡寛之さんが全国大会出場 —「第46回西日本酪農発表大会」開催—(大阪)ほか 10 日本酪農見て歩紀 / 山口県山口市 土井真一牧場 13 原料情勢・輸入粗飼料の情勢(平成27年5月) 16 平成27年度4月 生乳受託販売乳量と用途別生乳処理量ほか 18 全酪連 Summer Gift 2015のご案内 22 栄えある春の叙勲褒章 25 今月の表紙 / 「酪農いきいきフォトコンテスト」応募作品 26 今月の子どもギャラリー / 北陽幼稚園(北海道)5歳 植村日萌子 27 広告 / 第44回 全国酪農青年女性酪農発表大会 28
------	---

●7月号	父の日に牛乳を贈ろう! 今年も全国各地でキャンペーンを実施! 2 嫁婿が語る酪農の魅力 / 田中真衣さん 8 第42回らくのうまギャラリー 入賞作品紹介 10 日本酪農見て歩紀 / 福島県飯野町 安齋牧場 13 購買部だより / DMSシステム 平成26年集計結果 16 酪農トピックス / 渋谷区少年団体連盟56年の歴史に幕(仙台)ほか 18 原料情勢・輸入粗飼料の情勢(平成27年6月) 22 平成27年度5月 生乳受託販売乳量と用途別生乳処理量ほか 24 酪政連活動報告 28 新規就農経営移譲を希望される方 28 今月の表紙 / ぼくの赤ずきんちゃん(牛の名)だよ〜ん 29 今月の子どもギャラリー / 岡山大学教育学部附属中学校(西日本)3年 仲原柚奈 30
------	---

●8月号	第66年度(平成27年度) 通常総会開催される 2 第44回全国酪農青年女性酪農発表大会① 酪農経営発表の部 6 酪農部だより / 指定団体制度と生乳取引の現状について 14 若手後継者の本音 / 小松正平さん 16 酪農トピックス / 「第22回スポーツ交流会」開催! 一若手中央酪農青年婦人会議—(仙台)ほか 18 広告 / 第2回 酪農とちぎpresents RADIO BERRY カップリングパーティー 20 日本酪農見て歩紀 / 静岡県湖西市 湖西牧場(株) 21 原料情勢・輸入粗飼料の情勢(平成27年7月) 24 平成27年度6月 生乳受託販売乳量と用途別生乳処理量 26 人事異動 28 今月の表紙 / 温かくて、お昼寝もちい〜 29 今月の子どもギャラリー / せたな町立馬場川小学校(北海道)6年 田中公 30
------	---

●9月号	第44回全国酪農青年女性酪農発表大会② 意見・体験発表の部 2 嫁・婿が語る酪農の魅力 / 高橋千賀子さん 6 組合が取り組む後継者支援事業 / おかやま酪農業協同組合(大阪支所管内) 8 酪農トピックス / 東日本大震災から4年4か月、経営再開! —みやぎの酪農協 阿部俊幸さん—(仙台)ほか 10 酪政連だより / 日本酪農危機突破・総決起大会の開催について 12 酪農家の皆様へお知らせ 13 日本酪農見て歩紀 / 茨城県常総市 渡辺和好牧場 14 原料情勢・輸入粗飼料の情勢(平成27年8月) 16 平成27年度7月 生乳受託販売乳量と用途別生乳処理量ほか 18 広告 / 飼料のNIR分析は Dairy One のサテライトラボ 全酪連 分析センターへ 22 今月の表紙 / 蔵王連峰と牧草の収穫 23 今月の子どもギャラリー / 倉吉市立山守小学校(西日本)3年 小谷まこ 24
------	---

●10月号	若手後継者の本音 / 丹内翔夢さん 2 酪農トピックス / 富安麻紀子氏 全国酪農青年女性酪農発表大会 最優秀受賞 祝賀会盛大に開催される!(福岡)ほか 4 酪農家さんからの投稿コーナー / 長崎県 前田牧場 5 総務部だより / 法人番号の「通知・公表」開始スケジュールについて 6 管理部だより / ネット犯罪とセキュリティ対策について 〜標的型攻撃に関連して〜 8 日本酪農見て歩紀 / 大分県杵築市山香町 田畑修一牧場 11 原料情勢・輸入粗飼料の情勢(平成27年9月) 14 平成27年度8月 生乳受託販売乳量と用途別生乳処理量ほか 16 酪農業に対する理解を深めてもらうべく、PR活動を行います! 20 今月の表紙 / はるたは力持ち 21 今月の子どもギャラリー / 練馬区立大泉東小学校(関甲信)2年 森川真衣 22
-------	---

●11月号	嫁婿が語る酪農の魅力 / 石井晃子さん 2 平成27年度会員役職員研修「米国視察研修報告」 4 酪農トピックス / 完成!! 福島県酪協「復興牧場・(株)フェリスラテ」(仙台)ほか 10 農業協同組合法の改正について 14 酪政連活動報告 17 組合が取り組む 婚活支援事業「第2回 酪農とちぎpresents RADIO BERRY カップリングパーティー」が開催される 18 日本酪農見て歩紀 / 北海道上川郡十勝清水町 渋谷正則牧場 19 原料情勢・輸入粗飼料の情勢(平成27年10月) 22 平成27年度9月 生乳受託販売乳量と用途別生乳処理量ほか 24 全酪連 Winter Gift 2015のご案内 28 今月の表紙 / 権力争い 31 今月の子どもギャラリー / 美祿市立秋吉小学校(西日本)3年 土山希望 32
-------	--

●12月号	若手後継者の本音 / 高橋雅治さん 2 第54回農林水産省式典が盛大に開催される —山下雅博さん(北海道会議)内閣総理大臣賞 表彰式— 4 「理解醸成活動」東京・有楽町駅にて大々的にPR!! 5 購買部だより / 「全日本ホルスタイングランプリ2015」開催される 6 酪農トピックス / 第6回 東京支所管内「会員女性職員研修会」開催!(東京)ほか 8 日本酪農見て歩紀 / 鳥取県西伯郡伯耆町 杉浦真司牧場 12 広告 / 近未来の酪農経営に備える 15 原料情勢・輸入粗飼料の情勢(平成27年11月) 16 平成27年度10月 生乳受託販売乳量と用途別生乳処理量ほか 18 今月の表紙 / やーめーて! 22 今月の子どもギャラリー / 練馬区立大泉東小学校(関甲信)6年 眞下わかば 24
-------	---



今月の



入賞作品紹介

大自然の牛

練馬区立大泉東小学校(関甲信)6年 眞下 わかば



今月の入賞作品は、練馬区立大泉東小学校(関甲信)6年の眞下 わかばさんの作品です。大自然のなかにたたずむ牛さんの姿がとても詩的です。牛さんを包む風の流れや光のまばゆさがつたわってきます。色数が少ないながら、空間を繊細に表現した絶妙な作品です。色鉛筆の筆圧の強弱で対象物のそれらしさが巧く描き分けられています。

※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第42回らくのうこどもギャラリー」で全国588点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議